

【鹿児島県納税貯蓄組合連合会会長賞】

税のありがたさ

鹿屋市立輝北中学校

二年 山之内 琴音

あなたは「税」と聞いてなにを思い浮かべるだろうか。ひとことに「税」といっても、消費税や所得税、たばこ税、住民税などたくさん種類があり、私たちが耳にしたことのないものもある。私は税について詳しく知るため、インターネットで調べてみた。

わたしたちの一番身近にあるのは「消費税」だと思う。今や当たり前存在している消費税だが、一九八九年の四月一日に日本ではじめて税率三パーセントで導入された。その後、国民の反発をうけながらも、一九九七年に五パーセント、二〇一四年に八パーセントと段階的に引き上げられ、二〇一九年には十パーセントまで引き上げられた。消費税をはじめ、たばこ税や所得税などの「税」はいろいろなに使われているのだろうか。

一番身近にあるものとして学校生活があげられる。わたしたちが普段使っている教科書を見てみると、「この教科書は、ここからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています」と書かれている。つまり、わたしたちが普段使っている教科書には税金が使われているということだ。他にも、最近導入された一人一台のタブレットや音楽室にあるピアノ、そして、校舎を建てるための費用にも税金が使われている。わたしたちが質の高い授業が受けられるように、そして、平等に教育が受けられるように税はいろいろなお金に使われているのだ。税が使われているのは学校生活だけではない。たとえば、救急車や消防車、パトカーなどの緊急車両、病院を受診するときの医療費、ごみ収集などだ。もし税がなかったら、緊急車両を要請するときの医療費、ごみとだ。税金がないと、何をするにもお金がかかり、国民としての生活が成り立たなくなるのだ。税のおかげで生活できているといっても過言ではない。まちを見わたしてみると、いろんなところに税金が使われていることがわかる。たとえば、毎日通っている学校や、わたしたちの暮らしを支える緊急車両、病院やゴミ収集などだ。これだけではない。普段何気なく通っている道路、信号機、橋、公園などにも税金が使われている。

わたしたちが学校でたくさんのお金を学べているのも、安全で安心して暮らせているのも、快適に暮らせているのも、すべて税のおかげだと知って、びっくりした。今、納められている税がないと、今のような幸せな生活はできていないだろうし、社会は崩れていくだろう。だから、税金はなくてはならない「生活必需品」のようなものであるため、私たちの暮らしにはとても大切だ。そして、納められた税は、巡り巡ってやがて、自分の役に立つだろうし、多くの人の命や生活を支えるだろう。納められた税、税をしっかりと納められている方々に感謝し、今生きているこの時間、わたしたちが授業を受けている時間を大切にしていきたいと思う。